



# REX-5053

*Standard Parallel Port Printer PC Card*

## ユーザーズマニュアル

2003 年 11 月

第 3.1 版

 **RATOC**  
Systems, Inc.  
ラトックシステム株式会社

**第1章 製品仕様**

(1-1) はじめに .....	1
(1-2) 基本仕様 .....	1
(1-3) 製品内容 .....	1
(1-4) コネクタピンアサイン .....	2
(1-5) レジスタ仕様 .....	3

**第2章 セットアップ**

(2-1) MS-DOS/Windows3.1 ご利用の場合 .....	4
(2-1-1) カードサービス版イネーブラによるカード設定	4
(2-1-2) ポイントイネーブラによるカード設定	9
(2-2) Windows95/98/Me ご利用の場合 .....	11
(2-2-1) Windows95 でのセットアップ	11
(2-2-2) Windows98 でのセットアップ	15
(2-2-3) WindowsMe でのセットアップ	17
(2-2-4) インストール内容の確認(Win95/98/Me)	20
(2-2-5) アンインストール方法(Win95/98/Me)	21
(2-2-6) I/O アドレスの確認	22
(2-3) Windows2000/XP ご利用の場合 .....	23
(2-3-1) Windows2000 でのセットアップ	23
(2-3-2) WindowsXP でのセットアップ	25
(2-3-3) インストール内容の確認(Win2000/XP)	26
(2-3-4) アンインストール方法(Win2000/XP)	27

## 第1章 製品仕様

### (1-1) はじめに

REX-5053 は PC-AT セントロニクス準拠の標準パラレルポート (SPP) 増設用 PC カードです。プリンタドライバーは各 OS 添付のドライバーを使用します。また、データ転送ドライバーを作成することにより 8 ビットパラレル双方向データ転送が可能です。

対応機種
・ PC-AT 互換機

#### (※注意事項)

- ・ PC-98 互換機には対応していません。
- ・ ECP、EPP モードはサポートしていません。

### (1-2) 基本仕様

項目	仕様内容
PC カード仕様	PCMCIA2.1/JEIDA4.2 TYPE II 規格に準拠
コア LSI	SP37E760 Super I/O Parallel Port
増設ポート数	1 ポート
入出力レベル	TTL レベル
I/O 占有アドレス	任意ベースアドレスから連続 4 バイト
割り込みライン	任意
消費電流	typ. 20mA
入出力コネクタ	セントロニクス 36 ピンオス

### (1-3) 製品内容

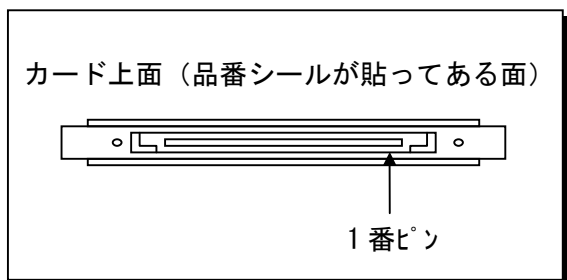
REX-5053 は以下のセット内容になっています。ご利用前に必ずご確認くださいませす。

- REX-5053 Printer PC card
- ユーザーズマニュアル
- プリンタ接続ケーブル (約 1.5m)  
PC カード側 : NX-25T-CV  
プリンタ側 : セントロニクス 36 ピン
- ご愛用者登録カード/保証書
- 添付ソフトウェア (3.5"FD 1.44MB)



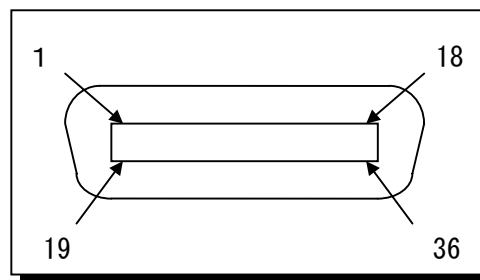
## (1-4) コネクタピンアサイン

No	信号名	I/O	機能
1	$\overline{\text{STB}}$	O	ストロブ出力
2	PD 0	I/O	(入)出力データ bit0
3	PD 1	I/O	(入)出力データ bit1
4	PD 2	I/O	(入)出力データ bit2
5	PD 3	I/O	(入)出力データ bit3
6	PD 4	I/O	(入)出力データ bit4
7	PD 5	I/O	(入)出力データ bit5
8	PD 6	I/O	(入)出力データ bit6
9	PD 7	I/O	(入)出力データ bit7
10	$\overline{\text{ACK}}$	I	アクノリッジ入力
11	BUSY	I	プリンタビジー入力
12	PE	I	用紙切れ入力
13	SLCT	I	プリンタセレクト入力
14	$\overline{\text{AFD}}$	O	自動ラインフィード出力
15	$\overline{\text{ERR}}$	I	プリンタエラー入力
16	$\overline{\text{INIT}}$	O	イニシャライズ出力
17	$\overline{\text{SLIN}}$	O	プリンタセレクト出力
18	—	—	使用禁止
19	—	—	使用禁止
20	—	—	使用禁止
21	—	—	使用禁止
22	GND	—	GND
23	GND	—	GND
24	+5 V	O	+5V
25	+5 V	O	+5V



カードバックコネクタ  
挿入側より見た図

No	信号名	No	信号名
1	$\overline{\text{STB}}$	19	GND
2	PD 0	20	GND
3	PD 1	21	GND
4	PD 2	22	GND
5	PD 3	23	GND
6	PD 4	24	GND
7	PD 5	25	GND
8	PD 6	26	GND
9	PD 7	27	GND
10	$\overline{\text{ACK}}$	28	GND
11	BUSY	29	GND
12	PE	30	GND
13	SLCT	31	$\overline{\text{INIT}}$
14	$\overline{\text{AFD}}$	32	$\overline{\text{ERR}}$
15	—	33	GND
16	—	34	—
17	—	35	—
18	—	36	$\overline{\text{SLIN}}$



セントロニクス 36ピンコネクタ  
挿入側より見た図

**(1-5) レジスタ仕様**

REX-5053 LPT PC カードは、ベースアドレスから連続した4バイトのレジスタがマッピングされます。レジスタの仕様は PC-AT のアーキテクチャーに準拠しています。詳細は、OADG ハードウェアマニュアル、または SP37E760 Super I/O のデータシートをご参照願います。

OFFSET	REX-5053 レジスタ仕様																
Base+0	<p>データレジスタ [READ/WRITE]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>b7</th> <th>b6</th> <th>b5</th> <th>b4</th> <th>b3</th> <th>b2</th> <th>b1</th> <th>b0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D7</td> <td>D6</td> <td>D5</td> <td>D4</td> <td>D3</td> <td>D2</td> <td>D1</td> <td>D0</td> </tr> </tbody> </table> <p>8ビットデータを転送する双方向データポートです。</p>	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0										
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0										
Base+1	<p>ステータスレジスタ [READ]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>b7</th> <th>b6</th> <th>b5</th> <th>b4</th> <th>b3</th> <th>b2</th> <th>b1</th> <th>b0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BUSY</td> <td>ACK</td> <td>PE</td> <td>SLCT</td> <td>Error</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>接続されているプリンタの各信号を示します。</p>	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	BUSY	ACK	PE	SLCT	Error	1	1	1
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0										
BUSY	ACK	PE	SLCT	Error	1	1	1										
Base+2	<p>コントロールレジスタ [READ/WRITE]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>b7</th> <th>b6</th> <th>b5</th> <th>b4</th> <th>b3</th> <th>b2</th> <th>b1</th> <th>b0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>INTP Enable</td> <td>SLIN</td> <td>INIT</td> <td>AFD</td> <td>STB</td> </tr> </tbody> </table> <p>プリンタを制御する全ての出力信号を提供します。</p>	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	1	1	1	INTP Enable	SLIN	INIT	AFD	STB
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0										
1	1	1	INTP Enable	SLIN	INIT	AFD	STB										
Base+3	未使用																

## 第2章 セットアップ

### (2-1) MS-DOS/Windows3.1 ご利用の場合

パソコンで PC カードを使用できる状態にするためには、スロットに挿入された時点でカードをイネーブルする必要があります。カードをイネーブルする方法には、カードサービスを使う方法とカードサービスを使わないでポイントイネーブラを使う方法があります。まず、どちらの方法でイネーブルを行うか決めて、下記解説のいずれかを参照してください。

#### (2-1-1) カードサービス版イネーブラによるカード設定

#### (2-1-2) ポイントイネーブラによるカード設定

(注1) ポイントイネーブラは、PCIC がインテル 82365 または互換のコントローラ以外は動作しません。

### (2-1-1) カードサービス版イネーブラによるカード設定

#### ☐ カードサービス対応イネーブラのコピー

添付のフロッピーからハードディスクにカードサービス対応イネーブラをコピーしてください。

```
G:¥>COPY A:¥LPTREX.EXE C:¥CARD
```

#### ☐ カードイネーブラとは...

パソコンのスロットに挿入した直後はメモリーカードとして認識されており、I/O カードとしての動作はしていません。このメモリーカードの中には、PC カードを I/O カードにコンフィギュレーションするために必要な情報（カード属性情報）が書き込まれています。

PC カードを I/O カードとして機能させるためには、コンフィギュレーションソフト「イネーブラ」が必要となります。イネーブラは、PC カードのカード属性情報を読み込んだ後、その情報に基づいて PC カードを所定の I/O カードにコンフィギュレーションします。イネーブラによるコンフィギュレーションが正常に行なわれて、はじめて PC カードは I/O カードとして使える状態になります。

## ☐ CONFIG.SYS への登録

最初に、カードサービスのインストールが完了しているか確認してください。次に、本製品添付のカードサービス対応イネーブラをカードサービスドライバの後に追加します。カードサービス対応イネーブラには、オプション仕様に従って必要なオプション情報を記載します。

## ☞ オプション仕様

```
DEVICE=C:\CARD\LPTREX.EXE [/<オプション>] [ ] … [ ]
```

オプション	解 説
/LPT=n	LPT ポート番号<n>を指定します。 (1) LPT ポート番号は 1 から 3 を指定します。 (2) LPT ポート番号を指定した場合は、オプション“/ADRS”と“/IRQ”の両方を同時に指定するか又は指定しないようにしてください。片方だけの指定はできません。 (3) 何も指定しない場合、自動設定されます。
/ADRS=xxx	カードに割り当てる I/O ベースアドレス<xxx>を 16 進表記で指定します。 (1) 何も指定しない場合、自動設定されます。
/IRQ=n	カードに割り当てる割り込み番号<n>を 10 進表記で指定します。 (1) 何も指定しない場合、自動設定されます。
/F	BIOS 環境変数を無視して強制的にイネーブル <sup>(注1)</sup> を行います。

### (注1) 強制イネーブル

通常、LPT ポートを使用するソフトウェアは、システム BIOS エリアに使用する I/O アドレスを登録します。「/F」オプションでは、すでに登録されていても、強制的にその LPT ポートを、自分の LPT ポートとして書き換えるためのオプションです。

したがって、「/F」オプションを使用する場合は、他のソフトウェアがその LPT ポートを使用できなくなりますので、注意してお使いください。

「/F」オプションを使用する場合は以下の時が、考えられます。

- (1) LPTREX.EXE を使用前に、すでに LPT1～LPT3 まですべて使用不可能な時、その使用されている LPT ポートに REX-5053 を割り当てる場合。
- (2) LPTREX.EXE を使用中に、他のソフトウェアによって、システム BIOS エリアを書き換えられた場合。
- (3) LPTREX.EXE を使用中に PC カードを抜いてしまい、再度イネーブルする必要がある場合、再イネーブルすると、カードを抜くまでに使用していた LPT ポートに割り当てることは不可能になります。その際、使用可能な LPT ポートがない、もしくは先程まで使用していた LPT ポートを使用したい場合は、パソコン本体をリセットすることによって、システム BIOS エリアに予約されている LPT ポートが再び使用可能になります。しかし、パソコンをリセットできない時に、「/F」オプションを使用します。

## ☞ カードイネーブルの確認

PC カードがスロットに挿入された時点でビープ音によりカードイネーブルが正常に行われたか否か通知します。ビープ音が 1 回ならば正常にイネーブルされていますのでテスト印字を行ってください。ビープ音が 3 回もしくは 5 回の場合は、イネーブルされていません。3 回の場合は I/O アドレスまたは割り込みが他のデバイスと競合している可能性があります。5 回の場合は、カードサービス添付のコモンイネーブラが既にイネーブルを完了している可能性があります。CONFIG. SYS に登録した LPTREX. EXE を一度取り外してコンピュータを再起動してください。

### パラレルポートの I/O アドレス (OADG 仕様)

OADG 仕様では、パラレルポートは標準 TTL レベルで 8 ビットのデータ転送を行うインターフェースとして規定され、パラレルポート (LPT) 1・2 または 3 として指定できます。また、パラレルポートに割り当てる I/O アドレスおよび IRQ は下記のように規定されていますので、本 PC カードのイネーブラも基本的にこれに準拠します。

ポ ー ト	デ ー タ レジ スタ ア ド レ ス	ス テ ー タ ス レジ スタ	コ ン ト ロ ー ル レジ スタ	割 込 番 号
LPT 1	03BCh	03BDh	03BEh	IRQ 7
LPT 2	0378h	0379h	037Ah	IRQ 7
LPT 3	0278h	0279h	027Ah	IRQ 5



以下、CONFIG. SYS の登録例を示します。CONFIG. SYS の内容はお使いのパソコンにより多少異なることがあります。登録内容については、ご利用されているパソコン添付のカードサービスマニュアル記載内容に従ってください。

#### CONFIG. SYS 記述例 1 → IBM カードサービス PlayAtWill の場合

```
DEVICE=C:\WINDOWS\EMM386.EXE RAM X=C800-CFFF (1)
.....
DEVICEHIGH=C:\EZPLAY\SSDPCIC1.SYS (2)
DEVICEHIGH=C:\EZPLAY\IBMDOSCS.SYS (3)
DEVICEHIGH=C:\EZPLAY\RMUDOSAT.SYS /SH=1 /NS=1 /MA=C800-CFFF (4)
.....
DEVICEHIGH=C:\EZPLAY\AUTODRV.SYS (5)
.....
DEVICE=C:\CARD\LPTREX.EXE (6)
```

##### 【解説】

- (1) 拡張メモリマネージャが [C800~CFFF] のメモリウィンドウセグメントを使用しないように指定しています。
- (2) ソケットサービスを起動しています。ソケットサービスファイル名はインストール時に選択したマシンにより異なります。
- (3) カードサービスを起動しています。
- (3) リソースマップユーティリティに対しカードサービスが [C800~CFFF] のメモリウィンドウセグメントを使用するように指定しています。
- (5) カードサービス標準イネーブラを起動しています。
- (6) 本製品添付のカードサービス版イネーブラを自動設定モードで起動しています

## CONFIG. SYS 記述例 2 → COMPAQ SystemSoft CardSoft の場合

```

DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE 1024 X=D000-DFFF (1)
DEVICE=C:\CPQDOS\SSVLSI.EXE (2)
DEVICE=C:\CPQDOS\CS.EXE (3)
DEVICE=C:\CPQDOS\CSALLOC.EXE (4)
INSTALL=C:\CPQDOS\CARDID.EXE C:\CPQDOS\CARDID.INI (5)
.....
DEVICE=C:\CARD\LPTREX.EXE /LPT=2 (6)

```

## 【解説】

- (1) 拡張メモリマネージャが [D000~DFFF] のメモリウィンドウセグメントを使用しないように指定しています。
- (2) ソケットサービスを起動しています。
- (3) カードサービスを起動しています。
- (4) リソースマネージャを起動しています。
- (5) カードサービス添付の標準イネーブラを起動しています。
- (6) 本製品添付のカードサービス版イネーブラを LPT ポート 2 を指定して起動しています。

## CONFIG. SYS 記述例 3 → TOSHIBA Phoenix PCM Plus の場合

```

DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE RAM P0=D000 P1=D400 P2=D800 P3=DC00 I=B000-B7FF X=C800-C8FF (1)
.....
DEVICE=C:\PCPLUS3\CNFIGMAN.EXE /DEFAULT
DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMSS.EXE (2)
DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMCS.EXE (3)
DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMRMAN.SYS
DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMSCD.EXE (4)
.....
DEVICE=C:\CARD\LPTREX.EXE /LPT=3 /ADRS=278 /IRQ=5 (5)

```

- (1) 拡張メモリマネージャが [C800~C8FF] のメモリウィンドウセグメントを使用しないように指定しています。
- (2) ソケットサービスを起動しています。
- (3) カードサービスを起動しています。
- (4) カードサービス添付の標準イネーブラを起動しています。
- (5) 本製品添付のカードサービス版イネーブラを LPT ポート 3・I/O ベースアドレス 278h・割り込み番号 5 を指定して起動しています。

## (2-1-2) ポイントイネーブラによるカード設定

DOS/V でカードサービスが提供されていない機種をご利用されている場合、本製品に添付されているポイントイネーブラにより LPT カードをイネーブルすることができます。また、カードサービス等のドライバをメモリーに常駐させるとコンベンショナルメモリの空き領域が不足して不都合が生じることがあります。このような場合、カードサービスを CONFIG. SYS に登録しないでポイントイネーブラを使ってカードのイネーブルを行うことができます。

ポイントイネーブラは、パソコン本体のメモリーウィンドウを通してカードの情報を読み出します。EMM386. EXE が CONFIG. SYS に組み込まれている場合には、4K バイトのメモリーウィンドウを EMM386. EXE が使用しないように<X=>オプションを追加してください。下記例は、ポイントイネーブラが使用するメモリーウィンドウのセグメントアドレス [DF00-DFFF] を設定する場合の例になります。LPT365. EXE はカード挿入状態で DOS プロンプトから起動します。

```
DEVICE=C:\EMM386. EXE 512 X=DF00-DFFF
```

## 🔑 オプション仕様

```
C:\>LPT365. EXE [/<オプション>] [ ] … [ ]
```

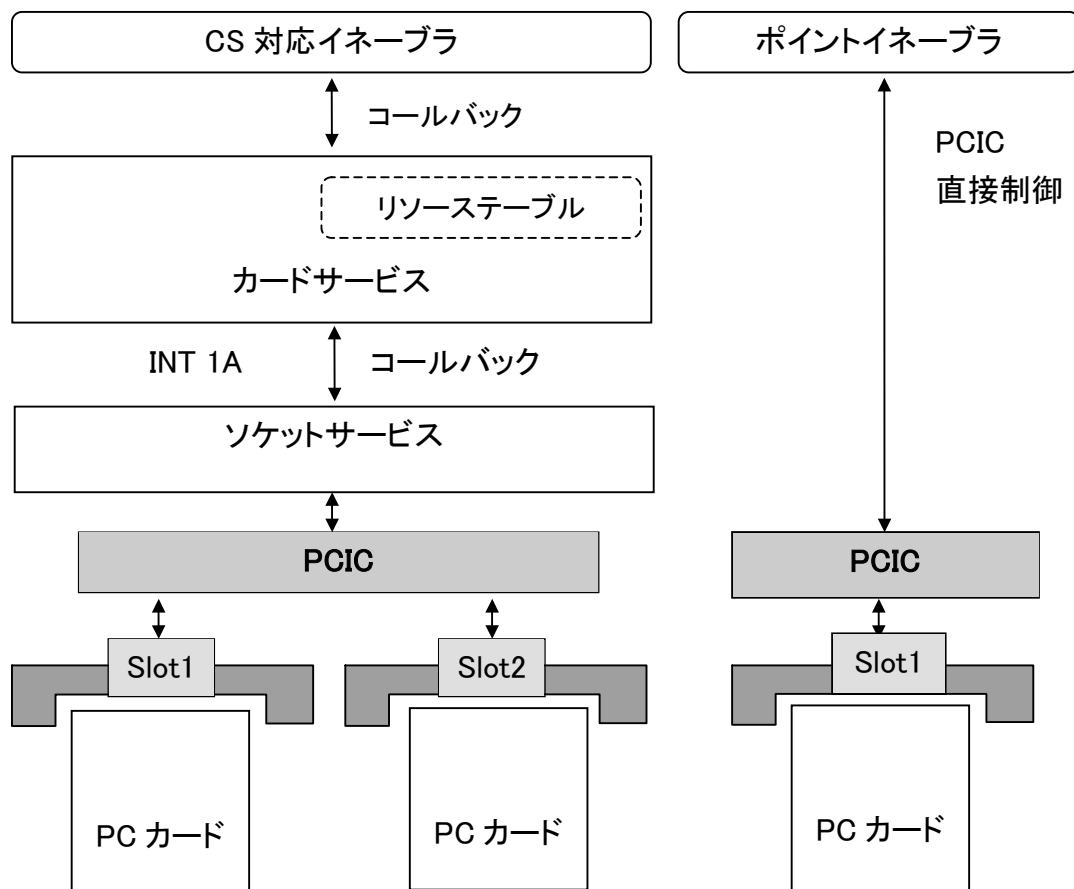
オプション	解 説
/MEM=xxxx	イネーブラが使用するメモリーウィンドウセグメント開始アドレス<xxxx>h を指定します。指定しないときはセグメント DF00h から 4K バイトを使います。
/LPT=n	LPT ポート番号<n>を指定します。 (1) LPT ポート番号は 1 から 3 を指定します。 (2) LPT ポート番号を指定した場合は、オプション“/ADRS”と“/IRQ”の両方を同時に指定するか又は指定しないようにしてください。片方だけの指定はできません。 (3) 何も指定しない場合、自動設定されます。
/ADRS=xxxx	カードに割り当てる I/O ベースアドレス<xxxx>h を 16 進表記で指定します。 (1) 何も指定しない場合、自動設定されます。
/IRQ=n	カードに割り当てる割り込み番号<n>を 10 進表記で指定します。 (1) 何も指定しない場合、自動設定されます。
/F	BIOS 環境変数を無視して強制的にイネーブルを行います。
/H	使用法および LPT のシステム BIOS 情報を表示します。他のオプションとの組み合わせ指定はできません。
/U=n	LPT ポート番号<n>で指定されたシステム BIOS 情報を消去します。他のオプションとの組み合わせ指定はできません。



### カードサービス対応イネーブラとポイントイネーブラ

カードサービス(CS)対応イネーブラは起動された時点で、CS のファンクションセットである GetCardServiceInfo により、CS が常駐しているかチェックします。CS が常駐していれば、イネーブラは CS のファンクションセット RegisterClient により、カードが抜き差しされた時 CS がイネーブラを呼び出すために必要なコールバック情報を登録しメモリに常駐します。PC カードが挿入または抜き取られると、CS は登録されたコールバック情報をもとに全てのイネーブラに抜き差しの通知を行います。CS は、複数の PC カードが使用する I/O アドレス・IRQ のリソースをリソース管理テーブルで管理します。同時に、上記のカード抜き差しの監視を行います。図で示すようにカードが挿入されるとそれを検出してイネーブラに通知します。イネーブラは CS からの通知を受けて自分のカードかどうか調べます。自分のカードの時は、CS に対し必要な I/O アドレスおよび IRQ を割り当ててくれるようにリソースの要求とイネーブルの要求を発行します。この要求を受けて CS は要求されたリソースが他で使われていなければ、ソケットサービス(SS)と呼ばれる低レベルのファンクションセットを呼び出してリソースを確保しカードのイネーブルを行います。

ポイントイネーブラは、PC Card Interface Controller(PCIC)を直接制御してカードをイネーブルします。カードの抜き差しの管理は行いません。



## (2-2) Windows95/98/Me ご利用の場合

Windows95 OSR-2<sup>(注1)</sup> のリリースにより現在 Windows95 のバージョンには、Windows95 OSR-2 と OSR-2 以前のバージョンがあります。「マイ コンピュータ」を右クリックし「プロパティ」情報を表示することによりどちらのバージョンがインストールされているか調べることができます。システム情報が「Microsoft Windows95 4.00.950 (a)」の場合は OSR-2 以前のバージョンになり、OSR-2 の場合は「Microsoft Windows95 4.00.950 B」となります。ご利用の Windows95 が OSR-2 かそれ以前のバージョンかによりインストールの方法が異なりますので注意してください。

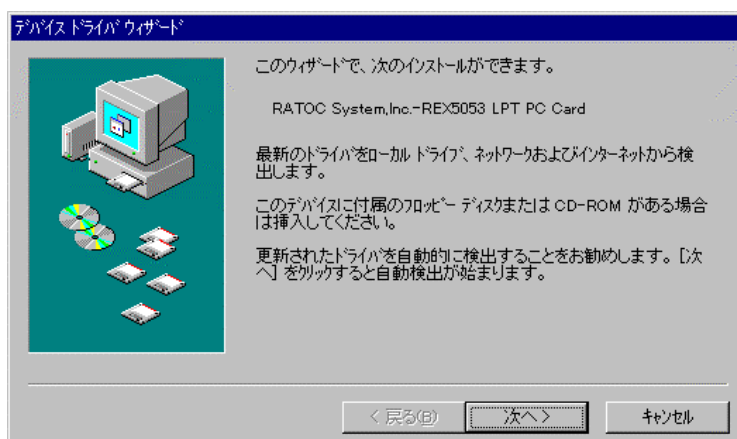
(注1) OSR-2 (OEM Service Release 2) では FAT32、CardBus 等の新しい機能がサポートされています。

### (2-2-1) Windows95 でのセットアップ

#### Windows95 OSR-2 でのインストール方法

##### 【1】PC カードの挿入

PC カードをスロットに挿入すると、ハードウェアウィザードが起動します。これに連動してデバイスドライバーウィザードが起動しドライバーのインストールをすることになりますが、ここではインストールすることができません。取りあえず「次へ」を選択します。

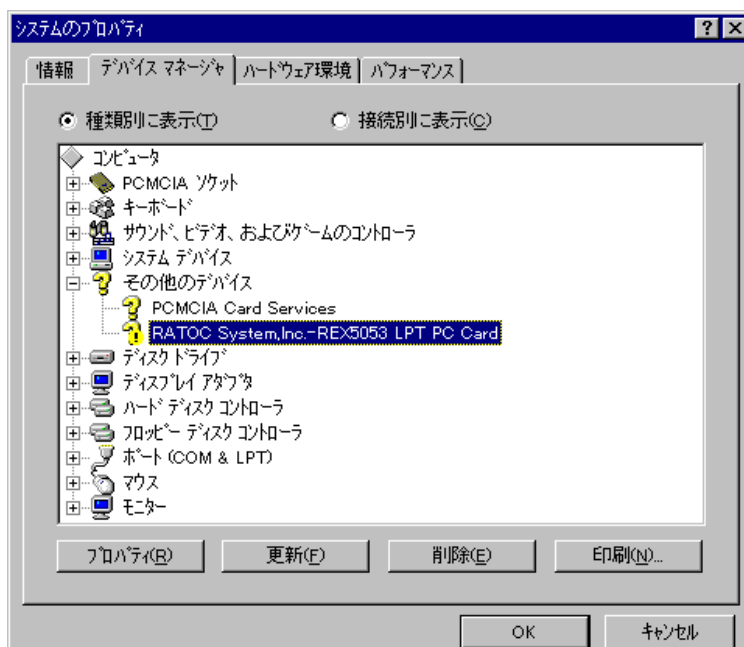


更に、「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」という結果が表示されますが、ここではインストールしませんので「完了」を選択します。

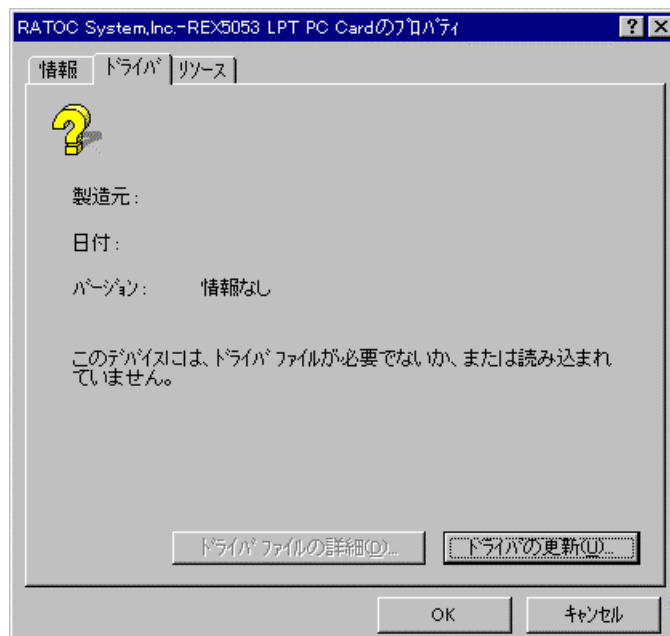


## 【2】通信ドライバのインストール

コントロールパネルのシステムの中のデバイスマネージャタブを開きます。その他のデバイスとして登録された「RATOC System, Inc. -REX5053 LPT PC Card」のプロパティを表示します。



ここから「ドライバの更新」を選択し通信ドライバを登録します。



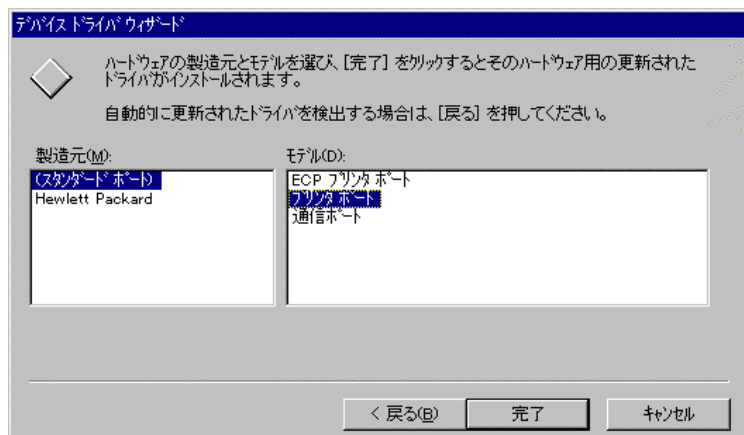
デバイスドライバウィザードが起動したら、「一覧からドライバを選ぶ」を指定し次へ進みます。



ドライバの一覧の中から「ポート(COM & LPT)」を選択し次へ進みます。



最後に、ハードウェアの製造元とモデルを選択します。ハードウェアの製造元は「(スタンダード)ポート」、モデルは「プリンタポート」を選択し完了します。



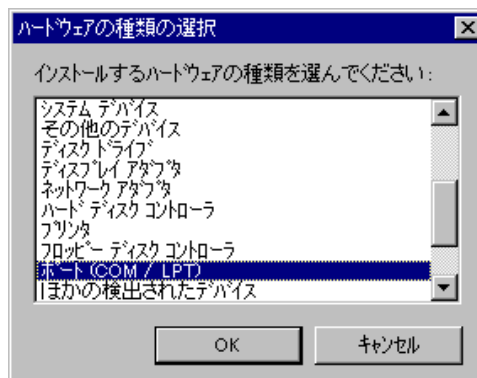
## Windows95 OSR-2 以前のバージョンでのインストール方法

### 【1】PC カードの挿入

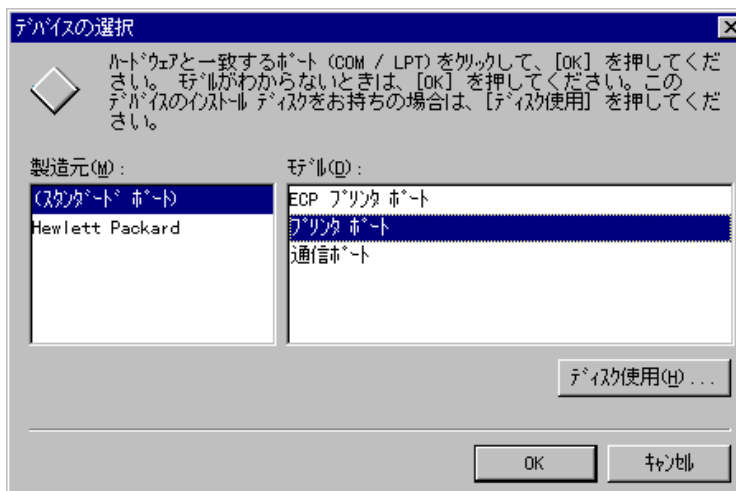
カードを挿入すると、ハードウェアウィザードが起動します。「一覧から選ぶ」を選択し次へ進みます。



インストールするハードウェア種類の中から「ポート(COM / LPT)」を選択し次へ進みます。



最後に、ハードウェアの製造元とモデルを選択します。ハードウェアの製造元は「(スタンダードポート)」、モデルは「プリンタポート」を選択し完了します。





## (2-2-2) Windows98 でのセットアップ

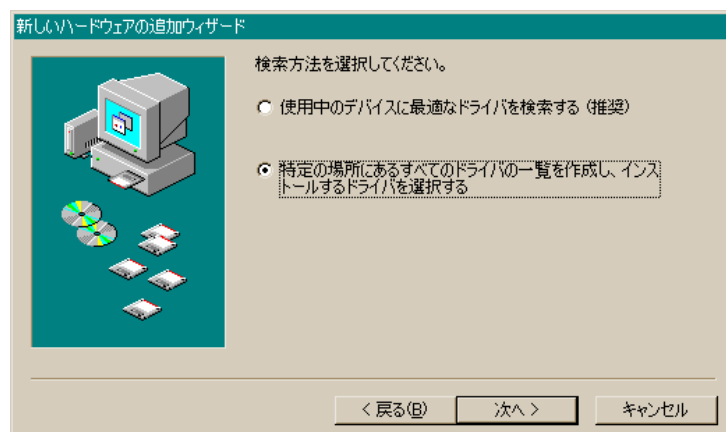
### Windows98 でのインストール方法

#### 【1】PC カードの挿入

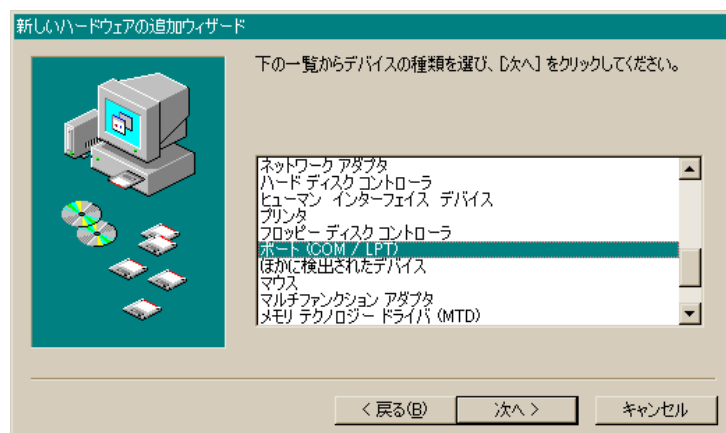
PC カードをスロットに挿入すると、ハードウェアウィザードが起動し右のデバイスドライバーウィザードのインストールが表示されます。ここでは、「次へ」を押します。



ドライバの検索方法は「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する。」を選択し、「次へ」を押します。

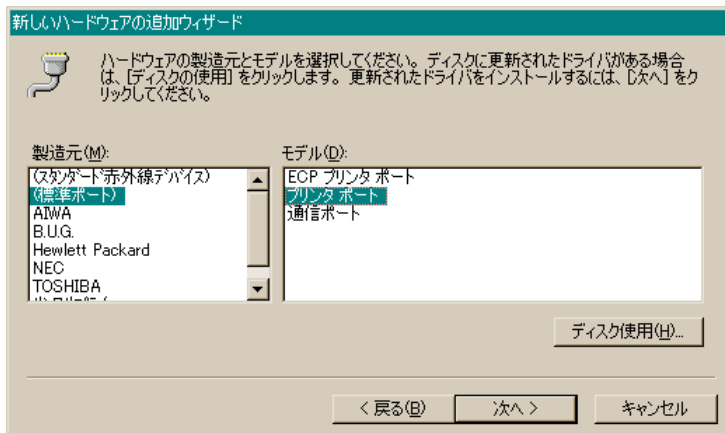


デバイスの種類は「ポート (COM/LPT)」を選択し、「次へ」を押します。

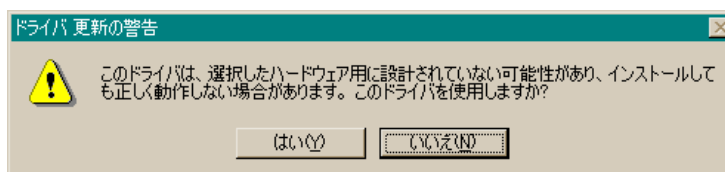


## 【2】ドライバーファイル場所の指定

モデルの選択では、製造元に「(標準ポート)」、モデルに「プリンタポート」を選択し、「次へ」を押します。



ドライバ更新の警告メッセージに対しては、「はい」を押して次に進みます。



インストール準備が完了したら、「次へ」を押します。



インストール完了が表示されたら、「完了」を押してハードウェアウィザードを終了します。



## (2-2-3) WindowsMe でのセットアップ

### WindowsMe でのインストール方法

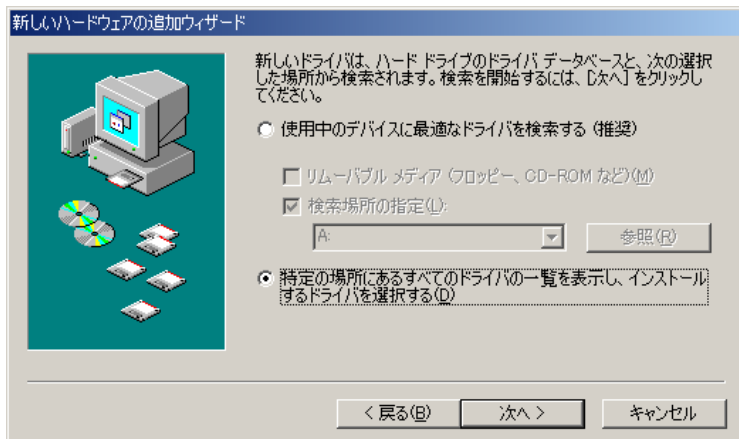
#### 【1】PC カードの挿入

PC カードをスロットに挿入すると、新しいハードウェアの追加ウィザードが起動し、右のデバイスドライバーウィザードのインストールが表示されます。

ここでは「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」にチェックを入れ「次へ」を押します。



ドライバの検索方法は「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」を押します。

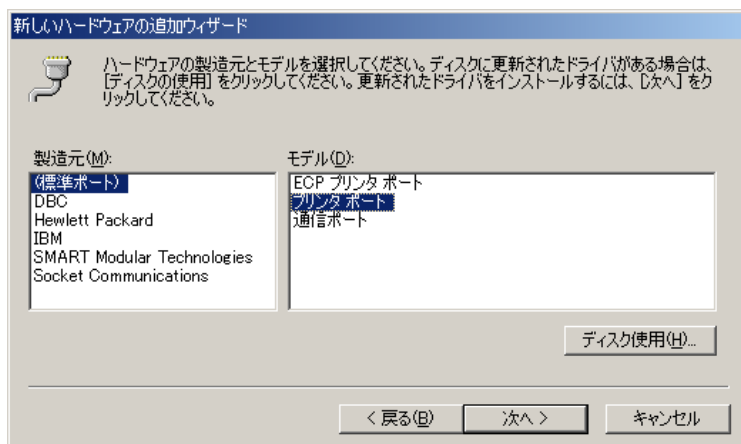


デバイスの種類から「ポート (COM と LPT)」を選択し、「次へ」を押します。

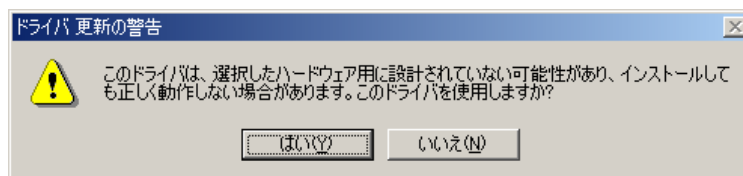


## 【2】 ドライバファイル場所の指定

モデルの選択では、  
製造元：「(標準ポート)」  
モデル：「プリンタポート」  
を選択し、「次へ」を押します。



ドライバ更新の警告メッセージに対しては、「はい」を押して次に進みません。



デバイス用のドライバファイルの検索：で、右図のように表示されますので「次へ」を押します。



インストール完了が表示されたら、「完了」を押してハードウェアウィザードを終了します。



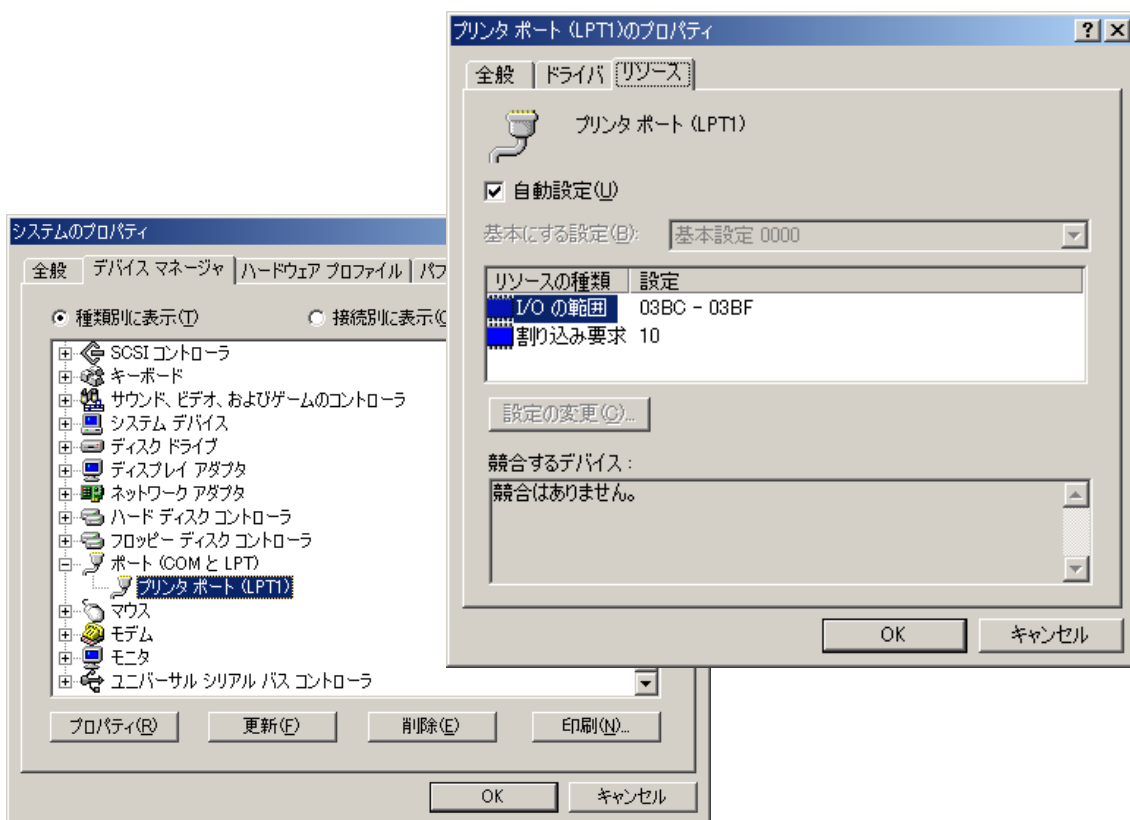
### (2-2-4) インストール内容の確認 (Win95/98/Me)

コントロールパネルのシステムを起動し、デバイスマネージャを選択します。カードの設定が正常に行われていれば、コンピュータのレジストリツリー「ポート (COM と LPT)」の下に、新たに「プリンタポート (LPTx)」 (x=数字) が登録されます。

プロパティのリソースタブを選択して I/O ポートアドレスおよび IRQ の割り当てで競合していないことを確認してください。

プリンターポートの右側に LPT 表示がない場合は、ポートの割り当てが正常に行われていません。その場合、パソコンを再起動するか、パソコン本体の BIOS 設定等でプリンターポートのモードを変更してみてください。(BIOS 設定では Onboard Parallel Mode を SPP に設定してください。)

画面では、「LPT1」となっておりますが、お客様の環境により LPTx の x の数字が異なりますのでご注意ください。



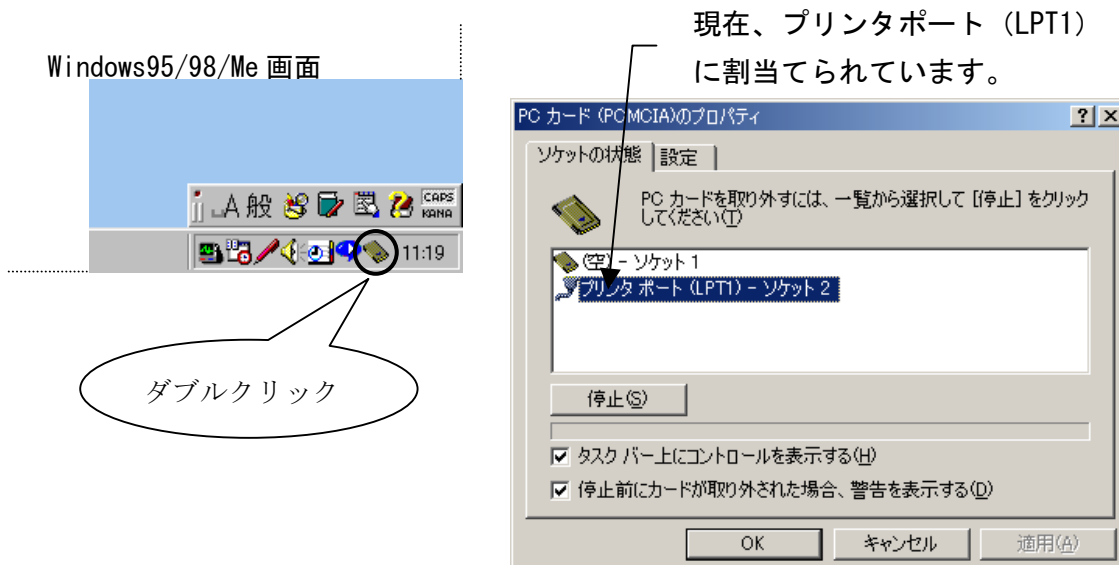
上記は、WindowsMe の画面で解説しておりますので、Windows95/98 では若干表示部分等が異なりますが基本的な操作は同じです。

(詳細は Windows のマニュアルをご参照願います)

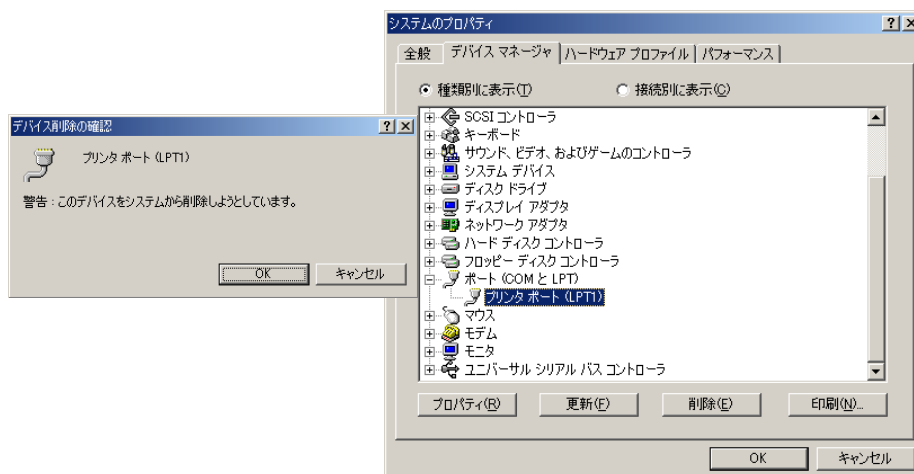
(2-2-5) アンインストール方法 (Win95/98/Me)

まず、現在ご使用されている REX-5053 が、どの LPTx ポート (x=数字) に割当てられているか確認します。

Windows 起動画面の右下の「PC カード (PCMCIA) の状態」アイコンをダブルクリックします。(以下の画面参照)



コントロールパネルのシステムを起動します。「システムのプロパティ」のデバイスマネージャタブを選択し、その一覧より、ポート (COM と LPT) の上記で確認したプリンタポート (ここでは LPT1) を選択し、「削除」ボタンを押します。デバイス削除の確認で「OK」ボタンをします。(以下の画面参照)



以上で、アンインストール完了ですので、パソコンを再起動してください。

上記は、WindowsMe の画面で解説しておりますので、Windows95/98 では若干表示部分等が異なりますが基本的な操作は同じです。

(詳細は Windows のマニュアルをご参照願います)

### (2-2-6) I/O アドレスの確認

カードに割り当てた I/O アドレスにアクセスできるかどうか MS-DOS のユーティリティ DEBUG. EXE または SYMDEB. EXE を使って確認します。REX-5053 LPT PC カードは、ベースアドレスから連続した 4 バイトのレジスタがマッピングされます (Page. 3 参照)。下図のようにすべての I/O アドレスの値が FFh でなければ、カードの設定は正常に行われています。

(MS-DOS プロンプト - DEBUG)

☞ I/O ポートアドレス (03BC-03BF) の場合

```
C:\>DEBUG
-I 3BC
04
-I 3BD
CF
-I 3BE
EC
-I 3BF
FF
-
```

☞ I/O ポートアドレス (0378-037B) の場合

```
C:\>DEBUG
-I 378
FF
-I 379
CF
-I 37A
E0
-I 37B
FF
-
```



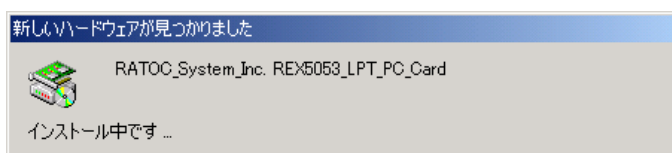
### (2-3) Windows2000/XP ご利用の場合

ここでは Windows2000 および WindowsXP での REX-5053 セットアップについて解説致します。

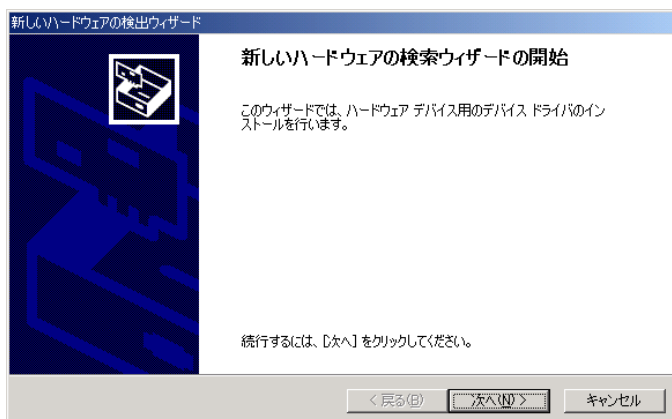
#### (2-3-1) Windows2000 でのセットアップ

#### 田 Windows2000 でのインストール方法

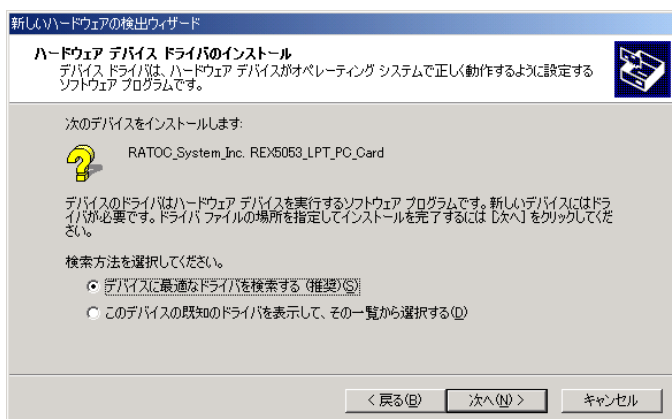
PC カードを挿入すると「ハードウェアウィザード」が起動し(右下画面)、インストールが開始します。「RATOC\_System\_Inc. REX5053\_LPT\_PC\_Card」と表示されているかを確認し、以下の手順でインストールを行って下さい。



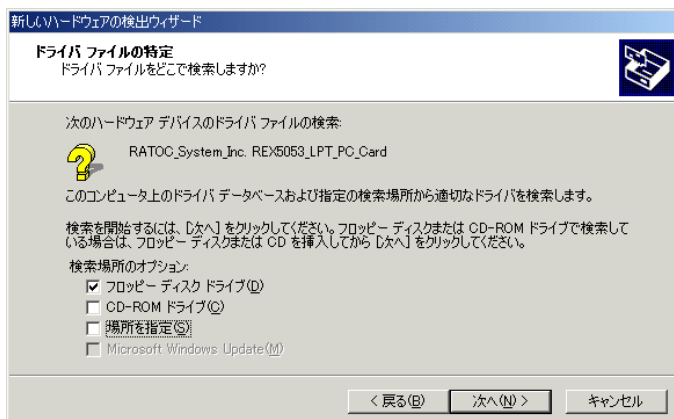
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」で、「次へ(N)>>」ボタンを押します。



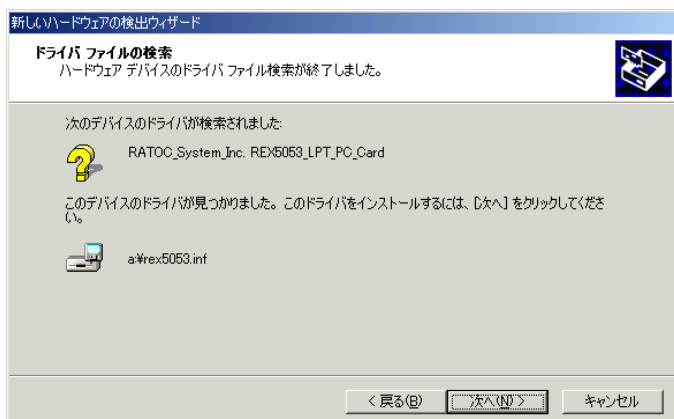
「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」では「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)」にチェックを入れて「次へ(N)>>」ボタンを押します。



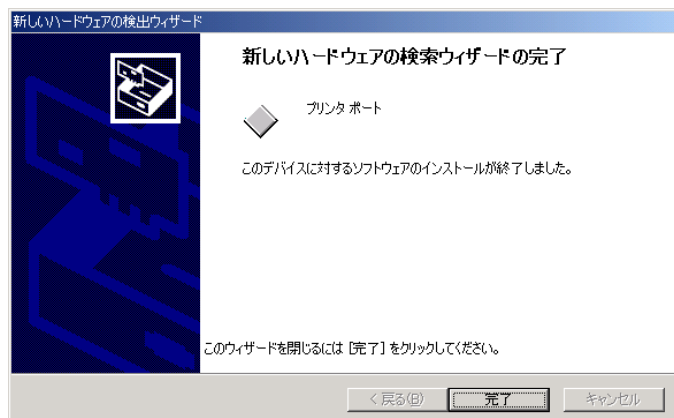
「ドライバファイルの特定」で、「フロッピーディスクドライブ(D)」にチェックを入れます。製品添付の FD をドライブに挿入し、「次へ(N)>」ボタンを押します。



「ドライバファイルの検索」が始まりドライバを検索します。検索完了後、「次へ(N)>」ボタンを押します。



「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」で「プリンタポート」が表示されます。



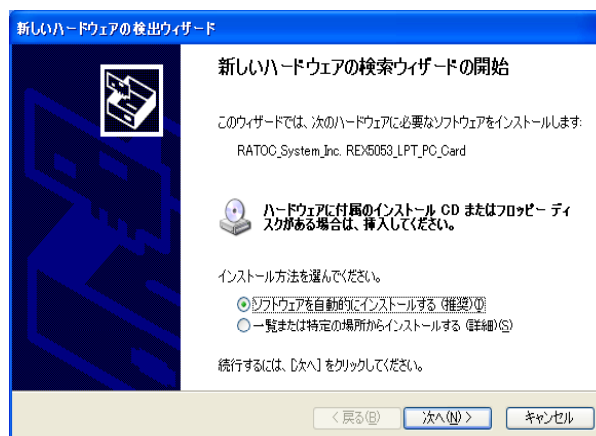
以上で REX-5053 ドライバのインストールは終了です。

## (2-3-2) WindowsXP でのセットアップ

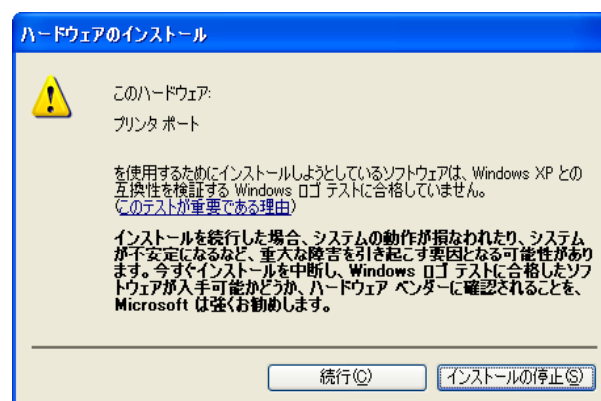
### WindowsXP でのインストール方法

PC カードを挿入すると「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動し、インストールが開始します。下図のように「RATOC\_System\_Inc. REX5053\_LPT\_PC\_Card」と正しく表示されているかを確認し、以下の手順でインストールを行って下さい。

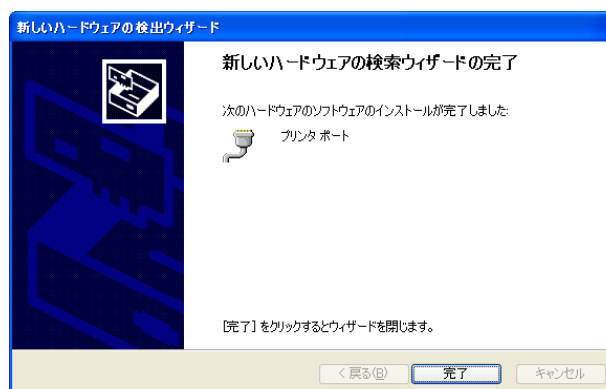
製品添付のセットアップディスクをパソコンにセットし、「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」を選択して、「次へ(N)>」ボタンを押して先へ進みます。



右図のように、このハードウェアプリンタポートを使用するためにインストールしようとしているソフトウェアは、WindowsXP との互換性を検証する... と表示されますが、「続行」を押しません。



「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」で「プリンタポート」が表示されます。「完了」ボタンを押してください。



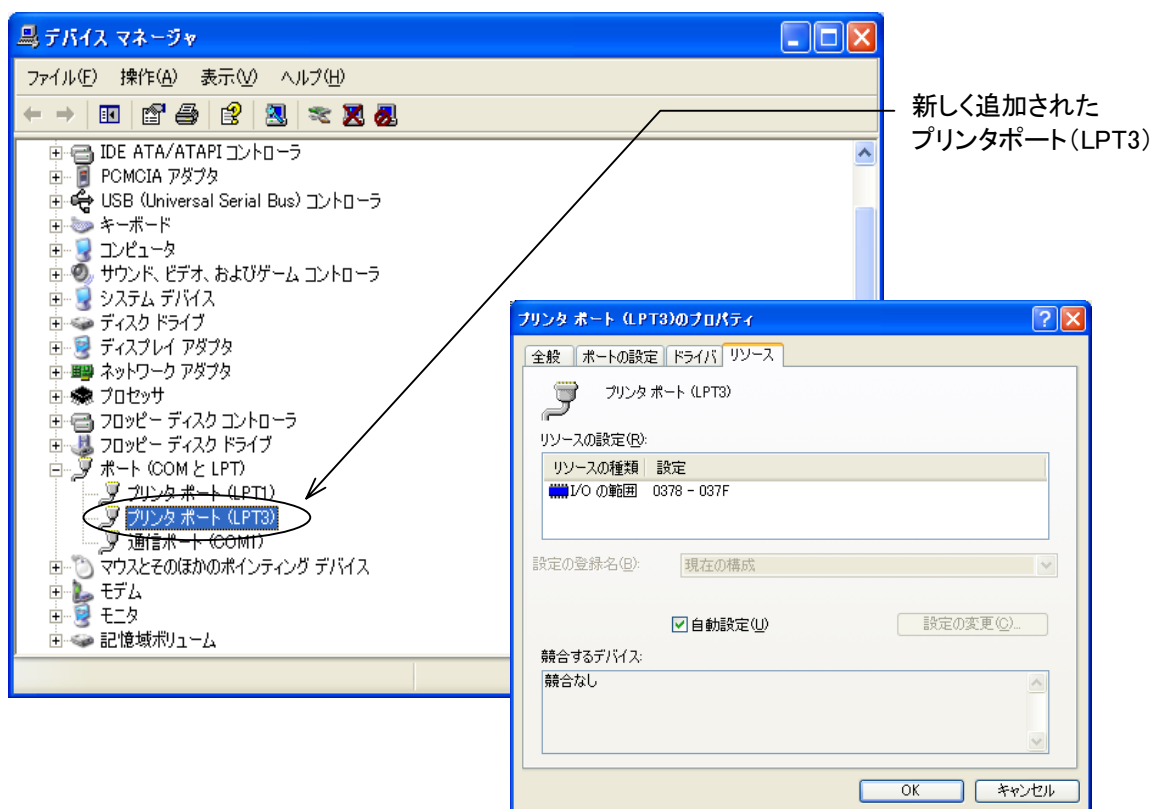
以上で REX-5053 ドライバのインストールは終了です。

### (2-3-3) インストール内容の確認 (Win2000/XP)

コントロールパネルのシステムから、「システムのプロパティ」を起動します。次にハードウェアのタブから「デバイスマネージャ (D)」を選択するとデバイスマネージャが起動しますので、「ポート (COM と LPT)」に新しくプリンタポートが追加されているのを確認して下さい。

プリンターポートの右側に LPT 番号の表示がない場合は、ポートの割り当てが正常に行われていません。その場合は、パソコンを再起動してください。

また、プリンタポートの「プロパティ」でリソースが正しく割当てられているかを確認して下さい。デバイスの競合が発生した場合は「自動設定 (U)」のチェックを外し、競合が起こらない値に設定を変更して下さい。



画面では、「LPT3」となっておりますが、お客様の環境により LPTx の x の数字が異なりますのでご注意ください。

また上記は、WindowsXP の画面で解説しておりますので、Windows2000 では若干表示部分等が異なりますが基本的な操作は同じです。

(詳細は Windows のマニュアルをご参照願います)

### (2-3-4) アンインストール方法 (Win2000/XP)

インストールした内容を削除する方法について説明します。  
削除の方法は、

- 【1】 デバイスの削除
- 【2】 INF ファイルの削除

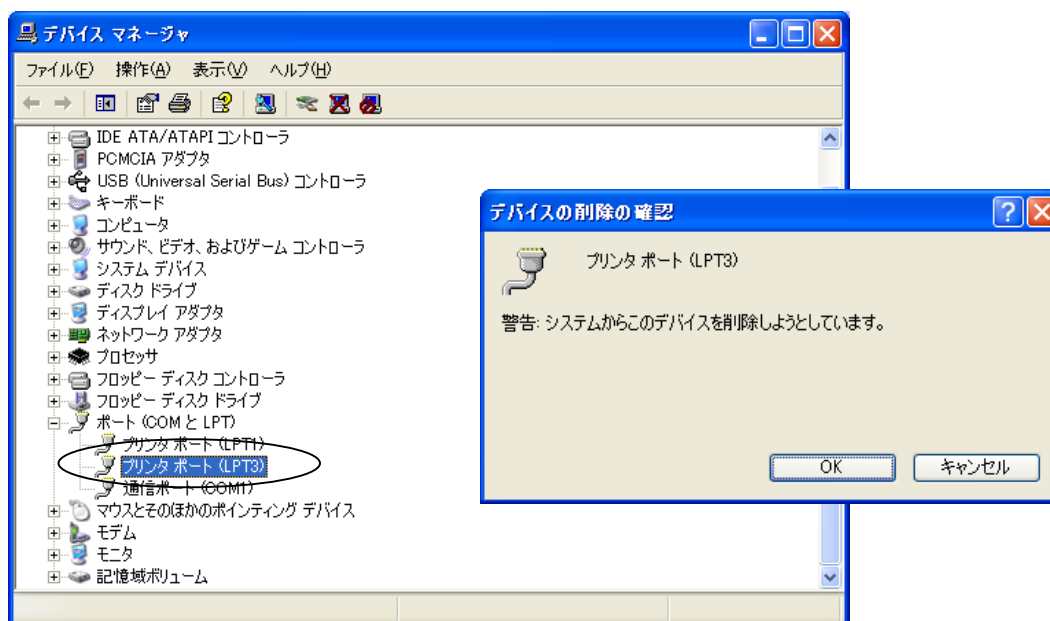
の手順で行います。

画面では、「LPT3」となっておりますが、お客様の環境により LPTx の x の数字が異なりますのでご注意ください。

またここでは、WindowsXP の画面で解説しておりますので、Windows2000 では若干表示部分等が異なりますが基本的な操作は同じです。

#### 【1】 デバイスの削除

デバイスマネージャを開きます。  
プリンタポート(LPT3)を選択し、右クリックでメニューを開いて、「削除」を選択します。  
右下図のような確認メッセージが表示されますので、「OK」を押します。これでデバイスが削除されます。



## 【2】 INF ファイルの削除

エクスプローラからフォルダ「C:\WINDOWS\inf」を開き、oemX.inf ファイル (X=数字) を検索し、例えば oem0.inf が1つだけの場合は、oem0.inf と拡張子のみ異なる oem0.PNF を削除してください。 oemX.inf が複数ある場合 (oem0.inf, oem1.inf...) は、メモ帳などでそれぞれの inf ファイルを開いて、その内容の [Manufacturer] セクションが %REX5053%=REX5053 となっているファイルと拡張子のみ異なる PNF ファイルを削除してください。



エクスプローラの設定が「全てのファイルを表示」になっていないとフォルダ「C:\WINDOWS\INF」は表示されません。設定の変更は、エクスプローラメニューの「ツール」から「フォルダオプション」を選択して変更します。

この画面の場合に削除するファイルは、  
oem1.inf  
oem1.PNF となります。

以上の操作でアンインストール完了です。カードスロットより、REX-5053 を抜きパソコンを再起動してください。

発行 ラトックシステム株式会社  
2003年11月15日 第3.1版 第1刷発行

## 製品に対するお問い合わせ

REX-5053に関する技術的なご質問やご相談の窓口を用意しておりますのでご利用ください。また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

ラトックシステム株式会社  
I&L サポートセンター  
〒556-0012  
大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル  
TEL. 06-6633-6741  
FAX. 06-6633-3553  
〈サポート受付時間〉  
月曜～金曜（祝祭日は除く）AM 10:00 - PM 1:00  
PM 2:00 - PM 5:00

また、インターネットのホームページでも受け付けています。

HomePage ☞ <http://www.ratocsystems.com>

### 🔔 ご注意 🔔

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。
- 本製品および本製品添付のマニュアルに記載されている会社名および製品名は、各社の商品または登録商標です。
- 運用の結果につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承ください。